

内田 俊宏 様

御発言配付資料

〔発言テーマ〕

地域活性化のタイムリミットとリニア時代の

生き残り戦略

岐阜市の立ち位置と目指すべき方向性
～ リニア時代の岐阜市のまちづくりの方向性 ～

中京大学経済学部 内田俊宏

1. 岐阜市の置かれている立場

- ・人口減少（若年人口の大都市圏への流出、大卒年齢での名古屋市への流出超過）
- ・地場産業の疲弊（繊維・アパレル）
- ・岐阜駅前再開発の遅れ（駅前商店街の空洞化）

2. 岐阜市のまちづくり

- ・ベッドタウン化→高層マンション建設、地価上昇率
- ・コンパクト＋ネットワークの重要性（岐阜市型BRT導入実績）
- ・柳ヶ瀬商店街・JR岐阜駅前の再開発

3. 岐阜市を目指すべき方向性

<定住人口（産業振興）>

- ・暮らしやすさPR、都市機能（名古屋）への近接性
- ・ワークライフバランスの良さ、テレワークの可能性（特に、サテライトオフィス）
- ・航空宇宙産業→各務ヶ原と小牧・名古屋港の結節点で研究開発拠点を

<交流人口>

- ・観光→武将観光、歴史遺産（岐阜城・合戦跡地）アニメツーリズム（聖地巡礼）、
鶺鴒いミュージアムなど。
- ・岐阜県観光の滞在拠点、田舎暮らし（原風景）、農業観光（アグリツーリズム）

4. リニア時代の岐阜市のポテンシャル

- ・名駅から20分＝首都圏から1時間圏内
- ・リニア名駅・リニア岐阜県駅（中津川駅）への速達性
- ・名駅からの二次交通（高速道路インターチェンジ、高速バス）
- ・2地域居住の推進
- ・東濃との連携（濃飛横断自動車道・下呂～高山）

5. シビックプライドの醸成

- ・岐阜市出身者の活用
- ・UIJターン（首都圏からのUターン予備軍も）
- ・岐阜市での起業推進

以上